

令和6年度 学校評価表						(中間・最終)					三原市立久井中学校					校番(中29)			
a 学校教育目標		ふるさとを愛し、鍛えよ『知・徳・体』			b 経営理念 (ミッション・ビジョン)		【ミッション】(自校の使命) ・社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) ・主体的な学びが育まれる学校 ・夢や志があり、誰もが通ってみたい学校 ・地域の活力の源として、信頼される学校												
評価計画						自己評価					改善方策		Ⅰ 学校関係者評価						
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	1月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方策	評 価			コメント				
												イ	ロ	ハ					
確かな学力の育成	主体的・対話的で深い学びの創造	自ら学ぶ中での学力向上	○子供たちが対話を通して、考えや表現を向上させる場の設定 ○ファシリテートを意識した授業の実施 ○R80(アールエイティー)による振り返り ○実力テストや生徒アンケートに基づく授業改善	生徒アンケート「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」の肯定的評価の割合	80%	89.4%		100.0%	A	子供たちが対話を通して、考えや表現を向上させる場を設定した授業研究を全教科で実施した。また、学び合いの実態について、具体的に生徒を見取り、校内研修で情報共有や協議を行ったことで、各教科の授業改善や共に学ぶ合う集団作りにつながった。	標準学力検査・生徒アンケートの情報共有や研究協議を継続して行い、授業改善につなげる。そして、ファシリテートをしながら個別に生徒を支援をしていくことにより、自ら学ぶ中で学力を向上することができるようにしていく。	○			○外部講師を活用した授業研究を更に充実させてほしい。 ○R80の取組の成果に期待する。				
		共に学び合う集団づくり	○学習用端末の効果的な活用による授業改善 ○小中連携による授業研究	実力テスト(年間2回実施)の平均点	県平均以上	1年: -45点 2年: +31.1点 3年: -7.7点		33.3%	D	中学1年生と中学3年生が県平均を下回った。特に、1年生は県平均との差が大きく、学力をつけるために支援が必要である。	生徒理解・C層の生徒への支援の観点から研究授業の参観と事後協議の実施を継続する。また、R80を全教科で実施し、授業改善につなげる。さらに、自習室を開設し学習機会を提供する。	○			○学力の差が気になります。県平均を目指してほしい。 ○学力向上の取組に期待する。				
		家庭学習の充実	○久井中ノートの活用(自主学習ノート) ○家庭学習の習慣化への働きかけ ○家庭学習の量(時間)の設定 ○家庭学習の質の向上	生徒アンケート「以前と比べて、家庭学習時間が増えましたか」の前回評価との比較において増えた生徒の割合	80%	比較対象なし		比較対象なし	比較対象なし	前期アンケートにおいて「1日何時間家庭学習をしていますか。」に対して、1時間以上と回答した生徒の割合はそれぞれ1年生69.2%、2年生56.8%、3年生62.5%だった。しかしながら、2時間以上と回答した生徒は7.7%、16.2%、21.9%と学年が上がるごとに増えている。	今年度から、久井中ノートに自主学習のページを設け、生活記録と自主学習を一体化して行うことができるようにした。また、家庭学習の効果を上げるために、質と量の両方の観点から改善する必要がある。各学級での学級活動や各教科において自主学習の進め方を指導する。	○			○「久井中ノート」の更なる充実に期待する。				
豊かな心の育成	自己肯定感が高い心豊かな子供の育成	不登校の未然防止 地域貢献意識の向上	○OSSRの活用、相談体制の充実、小中連携の充実 ○生徒指導の三機能を活かした指導(積極的な生徒指導) ○生徒会活動の活性化(自治能力の育成) ○校則の見直し ○自主参加による地域ボランティア活動の充実	生徒アンケート「学校行事への満足度」の肯定的評価の割合	90%	95.3%		100.0%	A	前期の生徒アンケートにおいて、1学期に行った学校行事(生徒会オリエンテーション、部活動体験入部、自衛隊による防災訓練、体育大会等)の満足度について肯定的評価だった生徒の割合は、1・2年生100%、3年生は91%であった。3年生は生徒会執行部として行事の計画・運営を担っている生徒が多く、各行事について自分事として厳しく振り返っているためと推測できる。	行事への満足度や「自分を向上させるためにがんばっています」の項目に肯定的に答えた生徒は89%と高いが、「自分は、まわりの人から認められていると思います」の肯定的評価は82%となっている。日々の学校生活において、教職員からの肯定的評価を伝えていくことや行事後の振り返り時に、他学年や仲間についてメッセージを送るなど、まわりからの良い評価を受ける機会を増やしていく。	○			○SSR教室があることにより、皆が学べることができてとても良いと思った。 ○自己肯定感を高めるために、自信を持たせる取組をしてほしい。 ○ボランティア活動の充実をさらに進めてほしい。				
健やかな身体 の育成	体力向上と健康教育の推進	新体力テストの分析による重点課題への取組 健康教育・食育の推進	○9カ年を見通した体力づくりのカリキュラムに基づく体育科授業の工夫改善 ○体力テストの分析結果をもとに、個々の課題克服のための具体的な運動の推奨 ○「金のルール」等に基づく生活指導(早寝、早起き、朝ご飯、食に関する関心の向上)	(10月)「体力・運動能力調査」で令和5年度県平均以上の種目の割合 (1月)「体力・運動能力調査」で令和6年度県平均以上の種目の割合(1月)	50%以上	87.5%		100.0%	A	男女ともに一種目以外は、県平均以上だった。結果から、筋力、持久力に課題があると分かった。	保健体育の授業において、単元に即した補強運動を継続的に取り入れていく。また、クロムブック等を積極的に活用して自分の動きや記録を振り返る活動を取り入れていく。	○			○部活動の充実に期待している。 ○県駅伝大会への出場は大きな成果だと思う。				
働き方改革の推進	ワークライフバランスの確立	開かれた学校づくり	○積極的な情報発信 ○上限目安時間を超えない時間管理(45時間/月) ○週1回(水曜日)の定時退校日の徹底	保護者アンケート「本校の教育活動に満足している」の肯定的評価の割合	80%	92.6%		100.0%	A	すぐーるを利用して、各種たよりや保護者宛の文書等の積極的な配信を行ったことが成果に繋がった。	引き続き、保護者・地域に向けての丁寧な情報発信をおこない、地域と共にある学校として信頼される学校づくりを推進する。	○			○学校だよりが充実してきている。				
		教職員の資質向上 不祥事根絶 長時間勤務の縮減	○ボトムアップによる業務改善 ○働く者の意識改革・醸成(ワークライフバランス)	時間外の在校時間 月45時間以内の職員の割合	100%	57.1%		57.1%	D	教職員16名の4月から9月末までの在校時間45時間以内の割合が57.1%であった。休日の部活動指導等で、在校時間が増えるため、年間を通して、見直しをもって業務を行うことが課題である。	・超過勤務が増加傾向にある職員への、呼びかけを通しての意識改革。 ・準衛生委員会や学校経営会議等で、教職員の心身の状態を情報交換し、現在の状況を把握することで効果的な声かけをしていく。	○			○業務が多く大変だと思いますが、身体が大切です。無理のないようにしてほしい。 ○部活動との両立が課題となる。				

【j：自己評価 評価】
A：100≦(目標達成)
B：80≦(ほぼ達成)<100
C：60≦(もう少し)<80
D：(できていない)<60

【Ⅰ：学校関係者評価 評価】
イ：自己評価は適正である
ロ：自己評価は適正でない
ハ：わからない

【j：自己評価 評価】
 A：100≦(目標達成) C：60≦(もう少し)＜80
 B：80≦(ほぼ達成)＜100 D：(できていない)＜60

【I：学校関係者評価 評価】
 イ：自己評価は適正である
 ロ：自己評価は適正でない ハ：わからない